

## ご 挨拶



本日は「山口木材株式会社」「法人設立65周年」記念平成29年度「安全大会」にご出席くださいまして誠に有難うございます。社員一同お礼申し上げます。

労働安全衛生法に基づき、大小にかかわらず安全について社員と共に学習してまいりました。お陰さまで今日まで大過なく邁進してまいりました。

私は、お客様・社員、家族の喜ぶ姿を糧として、安全第一、地域貢献と、地域・会社発展に努力してまいりました。有難うございました。これからも「社是」として、地域貢献・安全・安心・信頼を保ち続けます。

山口木材株式会社の歴史を紐解くと、明治17年(1884)に木挽商から木材商設立が始まります。木材商の前身である木挽き商いを始めたのは、二代目半七の時代でありました。慶応3年(1867)に起きた矢部町善了寺以東で起きた災害(大火災)により戸塚宿町民の大災害と落胆を目の当たりに見た半七は、材木商を始めたと考えられる。

木材商を始めた実態については不明であるが、私の母の記憶によれば、喜太郎(御爺さん)の話で、先代と先々代が戸塚町矢澤で木挽きをしていて吉田町に土地を購入。明治24年(1891)に新工場竣工させたと聞いた記憶がある。明治33年(1900)松本屋土蔵普請帳支払記述に「カネ半山口木口」と取引した記述が記載されている。

屋号「カネ半」木挽き・木材商発足から133年、法人山口木材株式会社発足(1952)から65年。地域の皆様の発展と共存、温もりのある木材を生かした家づくりを目指して進めてきました。現在の山口木材株式会社、前身と沿革は、江戸、明治・大正、昭和・平成と辿って行きます。出来上がり次第お披露目をしたいと考えています。

先ず、山口木材株式会社の基礎「礎」創りに全霊をかたむけたのは、山口喜太郎です。喜太郎は「日露戦争」に参戦した忍耐と努力で勝利した経験を生かし、地域との繋がりを大切に「人」を大切に事業を進めたと聞いています。当時不安定な「政治・経済」を乗り越えて、忠魂碑建立委員に任命される。消防組組頭、戸塚商工会副会長、戸塚町町会議員など歴任し今日の山口木材株式会社発展の「礎」を築いた。

四代目、山口利男は、昭和22年(1947)喜太郎から事業を継承。事業「発展」に向けて努力した。昭和22年は終戦後(敗戦)で、政治・経済は混乱し帰還兵の本土引揚が続き物資がほとんど自由にならない。GHQに国民が支配された時代に事業を続けたのは、爪に火を灯す以上大変だったと想像できる。戦後混乱期が続くなか、多くの引揚者が家庭を持ち経済が上昇に向かう。国民が平和を実感し家庭を持つことで住宅事情も変化、木材の需要も相当あったと考えられる。山口利男は昭和27年6月18日に社会経済発展を見越し山口木材店を法人して、山口木材株式会社とし、初代代表取締役社長に就任した。

利男は、政治が安定し経済が発展する中で昭和46年（1971）本社 林場及び製材工場を移設、昭和47年（1972）建設業者登録を取得。昭和51年（1976）陶磁器部門開設。

昭和61年（1986）建築事業部門新設。建築部門新築に伴い本格的に住宅建築に進出「山口ホーム」設立。

利男は、本社移転に伴い苦渋の選択をした。

先代、喜太郎から事業を継承する時、山口木材の歴史も継承したと思う。歴史は、明治24年（1891）吉田町24～27番地に土地を購入し山口木材を竣工（礎）させた発祥の地を離れ新たに本社ビル（戸塚町）竣工さすまで、熟慮したと思う。地域の皆様の利便性と事業の発祥地と歴史、「開かずの踏切の解消、東西戸塚駅の利便性、西口商店街再開発、」喜太郎が今まで築いてきた地域に対する思想と貢献。利男は決断した。本社移転と東西道路、開かずの踏切の解消、「アンダーパス」による道路混雑の解消と先代「喜太郎」と思いを共に再開発、区画整理事業に協力し本社を移転した。

木造3階建て新社屋落成、山口木材「グループ・ショールーム」開設。

昭和62年（1987）宅地建物取引業免許取得。

戦後経済は、所得倍増計画の流れのなかで経済は発展する。建売業者が連立し競争が激化したと考えられる。木材会社でなく幅広く事業拡大に向けて、大手ハウスメーカーの下請けとして建築業に参入したが、会社として、お客様の思いと、個別ニーズに対応できないと判断、自社で建売業を始める。

政治と経済は両輪である。それ以前に世界の情勢が大きく左右される。利男は政治、経済判断して事業を進めたが「経済変革」が数多くあった。昭和40年代は第一次経済成長・第2次経済成長、田中内閣誕生による日本列島改造論、そしてオイルショック・バブルの崩壊による「経済の変革」。多くの企業の倒産、山一証券・北海道拓殖銀行の倒産等企業が倒れるなか、利男は被害を最小限に留め時代を乗り越え山口木材株式会社を発展させた。

「発展の時代」平成18年（2006）山口利男は山口秀利に会社を「継承」させ会長職に専念する。山口木材株式会社、五代目、秀利は、利男より継承した、山口木材株式会社・山口ホームの安定に向け宅地開発、リフォーム事業、賃貸物件の管理等、事業安定に取り組んでいる。

秀利は、平成22年（2010）不動産管理会社、(株)ヤマキ・ビルディング・マネジメント設立 初代 代表取締役社長就任。平成25年（2013）代表取締役を山口秀一朗に「継承」させた。秀利は、先代、先々代の教えを継承。地域貢献（横浜戸塚ロータリークラブ幹事・横浜市戸塚倫理法人会会長・東海道戸塚宿まちづくり倶楽部会長・(株)トビーズ副社長）と、人と人との繋がりを大切にしながら事業「安定」に向け戦っています。

法人設立65周年記念の集いに参加いただいた、社員の皆様、協力事業者の皆様に感謝と敬意を改めて申し上げます。こんにちまで大変厳しい社会経済の変革と山口木材株式会社の厳しい求めに協力頂いた皆様・従業員の皆様に感謝と敬意を表します。

会社設立133周年、法人設立65周年を記念して感謝状を上程し感謝といたします。